

## 吾妻小富士

数千年にわたる火山活動により、磐梯朝日国立公園にある吾妻連峰の起伏に富んだ地形が形成され、吾妻小富士（標高 1,707m）などの峰々を生み出しました。吾妻小富士は、激しい噴火を繰り返した結果、火口側面に凝固した溶岩や火山灰、火山砕屑が堆積して 1,500 年以上かけて形成されました。円すい状の形状と左右対称の傾斜が富士山を彷彿とさせることから、吾妻小富士（小さな富士山）という名が付けました。吾妻小富士は比較的若い火山（約 6,000 年）ですが、非常に長い間噴火しておらず、将来、噴火する可能性も低いです。

吾妻小富士の斜面は緩い土砂や小石、スコリア（火山岩）に包まれていて、荒涼としています。植生に適した環境ではありませんが、一部の丈夫な種は、この乾燥した土でも生き延びることができます。ハイキングに訪れた際は、大きな岩々に生えるコケや、イタドリ、コメススキといった耐寒植物の存在に気づくでしょう。吾妻小富士の南麓にはゴヨウマツが自生しており、徐々に山の斜面に広がっていることから、生態遷移（火山噴火後にゆるやかに植生が戻ってくること）がうかがえます。

浄土平の駐車場から 10 分ほど歩くと、火口壁に到着します。火口壁の周囲を歩くと、福島盆地や浄土平湿原を望むパノラマのほか、深さ約 70 メートル、直径約 500 メートルの火口の眺めを楽しむことができます。火口壁は約 1 時間で 1 周することができます。

トレッキングコースの大部分が不安定な小石の道（ガレ場）で、強風が吹く場合もあるので、注意が必要です。特に、火口付近を歩く際にはご注意ください。